

排水対策

5月14日発表の東北地方の1か月予報（5月16日～6月15日）では、向こう1か月の降水量は、平年並か多い予報となっています。
播種から生育初期にかけて湿害を受けると、生育が抑制され収量が低下します。
湿害回避のため、排水対策を徹底しましょう。

1. 明渠

降雨の排水は地表からの排水が基本です。

播種前に明渠を施工しましょう。

明渠の深さは30～40cmとし、確実に排水路につながります。

過去に施工した明渠を利用する場合は、深さや排水口のつながり目をメンテナンスしましょう。

2. 暗渠

(1) 本暗渠

暗渠が排水できる状態になっていることを必ず確認しましょう。

施工から年月が経っている場合は、本暗渠だけでは排水が不十分となっている可能性があります。

(2) 補助暗渠

水田転換畑は湿害が発生しやすいため、本暗渠に加え、補助暗渠（弾丸暗渠、籾殻暗渠、サブソイラによる耕盤破碎等）を積極的に組み合わせましょう。

補助暗渠は確実に明渠につながりましょう。

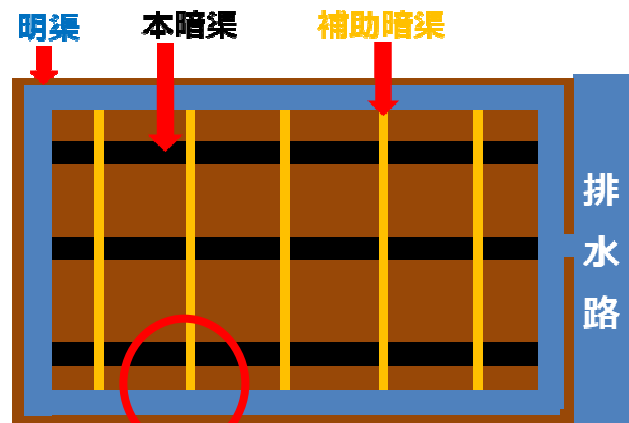


図1 圃場を上から見た図

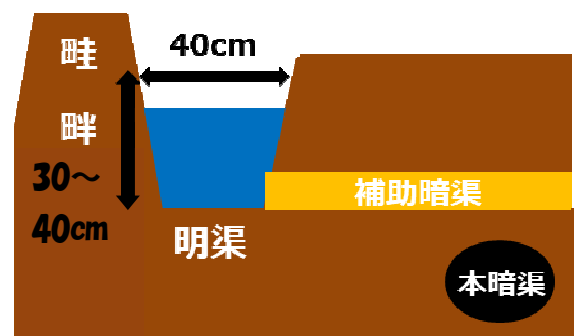


図2 圃場周囲の断面図

明渠・補助暗渠の施工を合わせて排水対策を行いましょう。

播種

1. 播種量

播種量は、種子の百粒重や目標栽植密度により決定しましょう。

播種量の目安

百粒重	栽植密度(本/10a)	畝間×株間×1株本数	播種量(kg/10a)
25g	17,000	60cm×20cm×2本	4.7
	20,000	60cm×20cm×2本	5.5
		30cm×20cm×1本	
30g	17,000	60cm×20cm×2本	5.6
	20,000	60cm×20cm×2本	6.6
		30cm×20cm×1本	

2. 播種適期

収量を安定的に確保できる播種適期は5月20日～6月10日です。

播種が遅れると生育期間が短くなり、節数・着莢数が少なくなって減収するため、晩播を行う場合は、栽植密度を増加させて栽植本数を確保する必要があります。

雑草防除

1. 土壌処理剤

土壌処理剤を効果的に効かせるためには、以下の点に注意しましょう。

- ① 播種直後に使用する。
- ② 整地・碎土を丁寧に行う。特に粒剤を使用する場合は碎土率を高める。
- ③ 乾燥続きの時や降雨時は、効果が劣ったり薬害が生じやすくなったりするため使用しない。

2. 難防除雑草に注意

帰化アサガオ類などの難防除雑草が蔓延すると、雑草防除が困難になります。

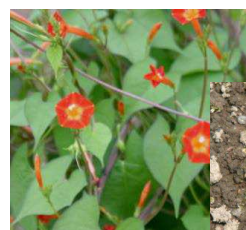
発生が見られた場合は、適切に処分するとともに、種子を未発生圃場に持ち込まないよう注意してください。



マルバアメリカアサガオ ▶



▶ マルババルコウ



☆春の農作業事故防止啓発運動展開中（4月1日～6月10日）

あせらず、ゆとりを持って農作業をしましょう。周囲の方にも、声掛けを！

熱中症に要注意！！作業前・作業中の水分補給とこまめな休憩をとりましょう。